

新教育課程（令和4年度から）シラバス抜粋

科目名	看護学概論		単位数	時間	履修年次
			1	30	1 年前期
講師名	大川 和子、鳥畑 好江		授業形態	講義、演習	
ねらい	看護の概念と役割を理解し、看護の本質について考え、看護の基本となる知識・技術・態度を学ぶ。				
目標	1.看護の概念と主要な看護理論について理解できる。 2.看護の対象について理解できる。 3.看護の機能と役割について理解できる。				
講義内容 (概要)	1.看護の本質	1)看護の定義 2)主要な看護理論 3)職業としての看護			
	2.看護の対象としての人間	1)全体としての人間 2)成長発達する存在 3)ニーズを持つ存在 4)生活者としての存在 5)適応する存在 6)社会・文化的存在			
	3.人間と健康	1)健康のとらえ方 2)健康の諸相 3)健康への影響要因 4)生活習慣とセルフケア 5)QOL			
	4.看護の機能と役割	1)専門職としての看護 2)看護の場・役割 3)看護の対象と協働			
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論、医学書院、2020 *				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	看護倫理		単位数	時間	履修年次
			1	30	1年次前～後期
講師名	大川 和子、須加野 幸恵		授業形態	講義、演習	
ねらい	専門職業人としての判断や行動を学ぶ。				
目標	1.看護倫理について理解できる。 2.看護倫理の事例検討ができる。 3.看護研究の基礎が理解できる。 4.研究における倫理の重要性と研究方法を理解する。				
講義内容 (概要)	1.看護における倫理	1)職業倫理・看護倫理 2)患者の権利と擁護 3)医療における倫理 4)倫理原則 5)看護職の倫理綱領			
	2.実習に向けた倫理的態度	【演習】			
	3.看護における研究	1)看護研究とは (1)看護研究の意義と目的 (2)研究における倫理の考え方 2)文献検索 (1)文献検索の意義 (2)文献検索の活用 3)研究論文構成 (1)論文の種類 (2)論文作成の構成 4)研究方法 (1)研究方法の分類 (2)量的・質的研究 5)プレゼンテーション (1)プレゼンテーションの意義 (2)プレゼンテーションの留意事項			
	4.プレゼンテーションの実際	【学術集会参加】			
評価方法	・筆記試験				
使用テキスト	・系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論、医学書院、2021* ・看護研究のこころえ帳、医歯薬出版株式会社、2022*				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	看護場面に共通する技術	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期～後期
講師名	天貝 恵子	授業形態	講義、演習	★OSCE
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。			
目標	1.看護技術の概念を理解できる。 2.看護に共通する技術(安全・安楽・自立)について理解することができる。			
講義内容 (概要)	1.看護技術の概念	1)看護技術とは 2)看護技術の特徴 3)看護技術の基本原則		
	2.コミュニケーション	1)コミュニケーションの意義 2)コミュニケーションの基礎知識 ・目的 ・要素 ・自己理解、他者理解 3)コミュニケーションの実際 ・人間関係を保つコミュニケーション		コミュニケーションの実際
	3.看護技術と看護過程	1)情報収集と観察、記録・報告に関する看護の意義 2)情報収集と観察、記録・報告に関する基礎知識		
	4.安全・安楽	1)安全・安楽に関する看護の意義 2)安全・安楽に関する基礎知識 ・安全・安楽を阻害する因子 3)安全・安楽の援助 ・安全に対する対策 ・安楽に対する対策		安全確保 温電法・冷電法
	5.創傷管理	1)創傷管理の基礎知識 ・創傷治癒形態 2)創傷処置 ・包帯法援助の基礎知識 3)褥瘡予防 ・意義 ・基礎知識		包帯法(巻軸帯・三角巾)
	6.対象者に向けた学習支援	1)学習支援に関する看護の意義 2)学習支援に関する基礎知識 3)学習支援の実際		患者指導
	7.OSCE	1)オリエンテーション		★OSCE
評価方法	・筆記試験(50%) ・OSCE(50%)			
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ、医学書院、2021* ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021*			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	看護過程	単位数	時間	履修年次
		1	30	1年次前期～
講師名	須加野 幸恵	授業形態	講義、演習	
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。			
目標	1.対象理解の方法を理解する。 2.看護過程の展開ができる。			
講義内容 (概要)	1.看護の基盤となる思考過程	1)根拠に基づいた看護 2)クリティカルシンキング 3)問題解決過程 4)リフレクション		
	2.看護過程の各段階	1) 看護過程とは 2)アセスメント ・情報の収集と整理 ・分析・解釈 3)看護問題の明確化と優先順位決定 4)看護目標の設定と計画 5)実施 6)評価		
	3.看護記録と実習記録	1)看護記録の法的規定 2)看護記録の目的と意義 3)看護記録の構成要素 4)看護記録の記載基準 5)情報の取り扱いと留意点		
	4.事例における看護過程の展開	1)事例紹介 2)アセスメント 3)看護問題の明確化と優先順位決定 4)看護目標の設定と計画 5)実施 6)評価		
評価方法	・筆記試験(70%) ・課題(30%)			
使用テキスト	・高木永子：看護過程に沿った対症看護、学研、2021 ・阿部俊子、山本則子：エビデンスに基づく疾患別看護の関連図、2014 ・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I、医学書院、2021* ・治療薬マニュアル、医学書院、2022*			
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有			

科目名	フィジカルアセスメント		単位数	時間	履修年次
			1	30	1年次前期～後期
講師名	萩野 裕美		授業形態	講義 演習	✿技術テスト
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける				
目標	フィジカルアセスメントの実際が理解できる				
講義内容 (概要)	1.ヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントが持つ意味 2)看護におけるフィジカルアセスメントの意義			
	2.フィジカルアセスメントに必要な技術	1)医療面接 ・問診(インタビュー)の技術 2)フィジカルイグザミネーション ・視診、触診、聴診、打診の技術			問診、視診、触診、聴診、打診
	3.バイタルサインの観察とアセスメント	1)体温、脈拍、呼吸、血圧の測定 2)バイタルサインの観察とアセスメント 3)バイタルサイン測定の実際			✿バイタルサイン測定
	4.身体計測	1)身長、体重、腹囲、皮下脂肪、握力の計測 2)計測からわかること			身長、体重、腹囲、皮下脂肪、握力の計測
	5.系統別のフィジカルアセスメント	1)呼吸器系のフィジカルアセスメント ・呼吸音聴取 2)循環器系のフィジカルアセスメント 3)腹部のフィジカルアセスメント ・腸蠕動音聴取 4)脳神経系のフィジカルアセスメント ・意識レベルの評価 5)運動器系のフィジカルアセスメント ・運動機能の観察			呼吸器系、循環器系、腹部、脳神経系、運動器系のフィジカルイグザミネーション
	6.フィジカルアセスメントの実際	1)事例を通じたフィジカルアセスメントの実際			✿フィジカルアセスメント
評価方法	・筆記試験(80%) ・課題(20%)				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I、医学書院、2021* 参考図書 看護が見える vol.3、フィジカルアセスメント、メディックメディア、2019				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	環境調整技術		単位数	時間	履修年次
			1	30	1年次前期
講師名	有馬 正子		授業形態	講義、演習	✿技術テスト
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目標	1.環境調整の基本原則を理解できる。 2.基本的日常生活援助技術ができる。				
講義内容 (概要)	1.環境の基礎知識	1)環境とは 2)人間の生活に影響を与える環境因子 3)環境のアセスメント			
	2.療養環境を整える援助	1)療養環境とは 2)安全な療養環境 ・環境調整 3)病床環境 ・ベッドメイキング ・臥床患者のリネ交換			環境整備 ベッドメイキング、 ✿臥床患者のリネ交換
	3.感染防止の基礎知識	1)感染予防における看護師の役割 ・看護師の責務と役割 2)感染予防の基礎知識 ・感染防止対策の基本 ・感染経路 ・感染経路の遮断 3)感染経路別予防策 ・標準予防策 ・手洗い法 ・个人防护用具の使用方法 4)感染物の基礎知識 ・感染性廃棄物の分別・表示 ・医療器具の取り扱い			手洗い法 ✿標準予防策
	4.無菌操作の基礎知識	1)消毒と滅菌の基礎知識 2)保管方法 3)滅菌物の取り扱いの基本			無菌操作
評価方法	・筆記試験(90%) ・課題(10%)				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021*				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	活動・休息援助技術		単位数	時間	履修年次
			1	30	1年次前期
講師名	大竹口 寿恵		授業形態	講義、演習	✳️技術テスト
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目標	1.活動・休息の基本原則を理解できる。 2.基本的日常生活援助技術ができる。				
講義内容 (概要)	1.活動の基礎知識	1)健康にとっての運動の意義 2)姿勢、基本肢位と良肢位 3)体位の種類、特徴と生理学的影響 4)ボディアメカニクス の原理と活用 5)運動のアセスメント (1)体位・動作の観察 (2)関節可動域の評価 (3)ADL 評価	✳️ボディアメカニクスを活用した 臥床患者の体位変換・安 楽な体位の工夫 ✳️移乗動作		
	2.活動・運動を促すた めの援助	1)活動を促す援助 (1)体位変換 (2)安楽な体位の保持 (3)歩行 (4)移乗と移送 2)運動を促す援助 (1)自動・他動運動 (2)レクリエーション	歩行介助、杖、歩行器、担 架 車いす、ストレッチャー移送 関節可動域訓練 自動・他動運動		
	3.睡眠の基礎知識	1)休息・睡眠の意義 2)睡眠の種類、メカニズム 3)睡眠障害の要因とアセスメント			
	4.休息・睡眠を整える ための援助	1)休息を促す援助 2)精神的安寧のための援助	休息・睡眠を促す援助 リラクゼーション、ハンドマッサージ		
評価方法	・筆記試験(90%) ・課題(10%)				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II、医学書院、2021*				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				

科目名	食事・排泄援助技術		単位数	時間	履修年次
			1	30	1年次前期～後期
講師名	井上 千寿子		授業形態	講義、演習	✳️技術テスト
ねらい	看護実践の基礎となる技術を身につける。				
目標	1.食事・排泄の基本原則を理解できる。 2.基本的日常生活援助技術ができる。				
講義内容 (概要)	1.食事の基礎知識	1)食事、栄養の意義 2)健康な食生活、食事摂取基準、治療食・療養食 3)摂食、嚥下、消化吸収のメカニズム 4)食事・栄養摂取に影響する因子 5)食事・栄養状態のアセスメント			
	2.食事の援助技術	1)食事援助の実際 (1)実施前の評価、説明、環境調整、準備、姿勢の保持(誤嚥防止)、食事用具の工夫、自助具の紹介、介助の方法、口腔ケア 2)非経口的栄養摂取の援助 (1)経管栄養法 (2)中心静脈栄養法			食事介助、食事指導 臥床患者の食事介助及び口腔ケア(嚥下障害患者を除く)
	3.排泄の基礎知識	1)排泄の意義 2)排泄のメカニズム 3)排泄に影響を与える因子 4)排泄のアセスメント			
	4.排泄の援助技術	1)排泄援助の実際 (1)自然な排便排尿を促す援助 (2)失禁のケア 2)トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄の援助 3)床上排泄の援助 (1)おむつ交換 (2)便器・尿器を使用した床上排泄の援助 4)排泄に関する処置 (1)浣腸 (2)摘便 (3)導尿 (4)膀胱留置カテーテルの管理			✳️おむつ交換 便器・尿器を使用した床上排泄の援助 浣腸
評価方法	・筆記試験 ・課題				
使用テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院、2021*				
備考	実務経験有：医療機関にて看護業務経験有				